用語のむつかしさを指摘されていたが，そうしたことからも判りやすい言葉で地域に理解させるような広報活動を痛感するものである。

ゼロ災運動の実践について

坂下営林署神坂製品事業所　　原　　成　晶

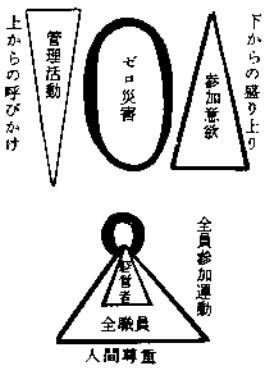
はじめに

坂下営林署における，ゼロ災運動の推進については「４９年度，業務研究発表会」（長野営林局）で発表しました。

私は，４８年度から，神坂製品事業所において実施して来たゼロ災運動について報告します。

本論に入る前にゼロ災運動について図－１を参照のうえ御理解をお願いします。

図－１．ゼロ災運動とは



「ゼロ災害，ゼロ疾病」とはただ単に災害や疾病をなくすというだけの消極的な意味ではなく，人間尊重の理念そのものであり，明るい快適な職場づくりへの導入でもあります。

従来から使われている「無災害」という言葉は，無災害競争などというイメージもあり，誤解されやすいのですが，このゼロ災運動は，今申し上げたように人間尊重が基本理念であります。

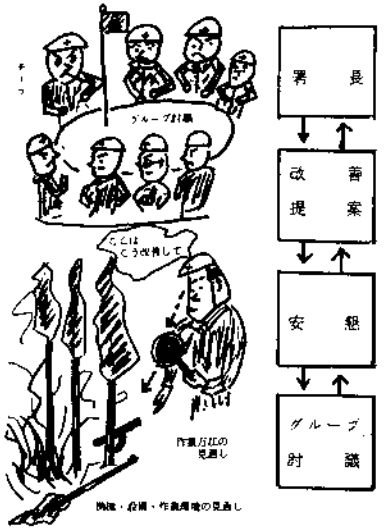
1　具体的な安全衛生活動について

(1)　緑十字グループ活動

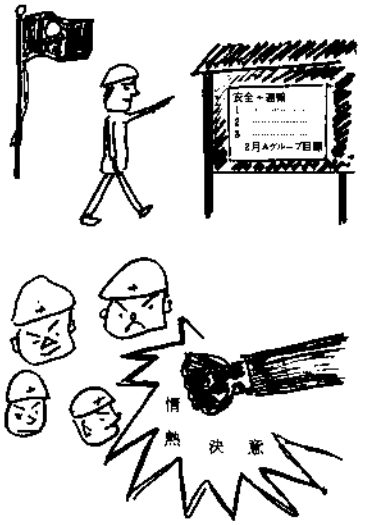
署における，安全衛生管理機構の外に，自主的安全衛生活動として，ゼロ災運動「全員参加で災害をゼロとする自主活動」をはじめ，小集団によるグループ活動をすすめています。これが「緑十字グループ」であります。現場では概ねセットの人員を一集団として目標達成につとめています。

◆グループの運営◆

図－２．機械・設備作業環境の見直し



図－３．グループの目標の掲示



ア）グループリーダー（チーフと呼んでいる）は，グループ目標達成のため一年を単位に互選で定めている。

図２により説明します。

イ）グループは毎年１日には「緑十字グループ朝の会」を開いて，１か月の目標を設定し，所定の用紙によって提案事項→処理内容→署の処理内容（グループの取り決め，申し合せ事項）をラインに報告する。

ウ）グループの討議は，ゼロ災旗を囲み一定時間（１時間～１５時間）全職場一斉に実施する。

エ）決定されたグループ目標は，各休憩所に掲示される。図－３，

オ）グループ活動の経過や成果は，所定の報告書によってラインに報告され，目標に対する現状値を「反省→結果→再反省→再結果」としてとりまとめます。

図表のようにグループ討議されたことを署長へ報告，それがまたグループに戻る。

◆安全ルールの定着と相互注意の励行◆

ア）毎朝，作業に入る前に，前日の作業の工程と当日の作業の工程について討論をおこない「作業の段取り」（手順）「作業の急所」について申しあわせ，相互注意の徹底に力を入れている。

イ）討論が終ると林業体操（毎日２回励行）をおこない，機械器具，保護衣等

の点検をして作業に着手する。

(2) リーダー研修の活動報告

リーダー（チーフと呼んでいる）の資質が，小集団活動の重要な要素である。そのため年2回の研修をおこない，グループの運営方法，話合のしかた，反省のしかたについて学んでいる。グループの活動報告は，署安全大会に報告され，グループ活動の体験が全体に浸透することにしている。その内から話し合いのむずかしさをどう克服したか。

◆私の研究発表のきっかけは◆

10月期に平均休業日数8日，3件の災害が発生した。これをきっかけに，各グループの目標をとりまとめ分析をした結果，次の三つの疑問を感じた。

- 真剣に皆で話しあったものか。
- 問題を切実にとらえているだろうか。
- 身近な事をしっかりとりあげているだろうか。

グループの討議内容が仮衣裳をまとって心棒のぬけたものになっている。話の中味に責任がなく長い時間を浪費するだけではなにも価値がない。グループ活動のなかからゼロ災小集団は常により高次な目標へチャレンジ(Challenge)してゆくことが基本である。「身近な」，「手軽な」，「小さな」目標から始めてステップ・バイ・ステップ（step by step）で次第に高次の目標にむかうことがなによりも必要であり，効果的であることが明確になった。そしてその後明るい人間関係が生れ災害もなく労働しているのである。

(3) ゼロ災推進委員会

全員参加運動を推進する基をなすもので，定期的に会が開催されている。委員長に管理官，事務局長に庶務課長，委員に主任3名，労働組合指名の安全衛生委員各1名，事務局員に厚生係があたり，各グループの活動が円滑に行われるように情況分析がなされ，よりよい活動の方向に導びいている。

(4) グループからの見直し改善運動

仕事を常に見直し改善することは，生産事業の能率を向上する点で極めて重要である。現に作業する者の創造的，参画的な気力は，良い職場の秩序作りとなっている。ここに小集団の討論から改善された1，2の例を報告する。図－2参照。

◆まず，改良木廻しガンタである。人工林間伐は天然林総生産量の3分の1を越える状態となったが，間伐木は伐倒しても隣接木にからみ倒れない，功程も落ちる，危険性があることから，S作業員から改良木廻しガンタの発案があり，署との連携のもとに試作試用の結果，能率的で費用も安価でしかも安全性の高い事が明らかとなったため現在実用しているが，結果は無災害をもたらし明るく作業がすすめられている。

◆ケヤキの大径木生産にあたり材を高価格で販売するためにどのような採材がよいか，またどのように安全に集材するかについてグループ会議により検討のうえ，これにもとづいて実行したが，その材が600万円で販売されたと聞き皆で喜びあった。

2 ゼロ災運動がどのように定着したか・今後どのように進めるべきか

50年8月神坂製品事業所が「モデルグループ」に指定されたと署から通知があった。考えて見れば，目標にむかって全員が懸命に運動をすすめて来た成果である。しかし現実に一人一人がどう受けとめているか，詳細を知るためにアンケート調査を実施した結果次のことが明らかとなった。

表－1. 開始後2年2カ月の時点で
全員からとったアンケートの一部

◇ ゼロ災運動をあなたはどういうふうに
受けとめていますか，お答え下さい。

1.	人間性の回復に役だったと思う	8％
2.	各人の自主性とグループの連帯意識をもりあげる方法だと思う	36％
3.	やる気をおこさせる精神運動だと思う	0
4.	押しつけでないといっても結果は押しつけ安全活動だと思う	44％
5.	形式的で効果が期待できないと思う	0
6.	安全機構が複雑化してなじまないと思う	4％
7.	ゼロ災運動は官庁組織になじまないと思う	4％

◇ ゼロ災運動は今後どのように進展してゆくと思いますか，
お答え下さい。

1.	やりがいがある。組織能力の向上になる	16％
2.	小集団（グループ）の息のながい自主活動だと思う	32％
3.	安全と生産活動との一体化をねらったものと思う	8％
4.	予測できない	36％
5.	長続きしないと思う	4％

坂下営林署神坂製品事業所

運動を進めてみてその結果を良とする者を，１～３とすれば，これが４４％。否とする者を４～７とすれば５２％である。これを表２「四国電力須崎営業所」のアンケートと対比して見る。

表－２．開始後９ヵ月の時点で
全員からとったアンケートの一部

◇　全参運動をあなたはどういうふうに
受けとめていますか，直接的にお答え下さい。

1.	これこそ人間回復の運動だ。不思議な魅力	４％
2.	各人の自主性とグループの連帯意識に呼びかけた心憎い技法	３８％
3.	「オーッ」の掛声に象徴される精神運動	１６％
4	押しつけでないといっても結局は押しつけ安全	３２％
5.	形式的で効果は期待できない	１０％

◇　全参運動は今後どのように進展して行くとお考えでしょうか，
その将来を占って下さい。

1.	やりがい感の高揚による組織能力の向上へ	１７％
2.	小集団（グループ）による息のながい自主安全活動	３５％
3.	ＺＤ運動との一本化	１９％
4.	予測できない	１３％
5.	永続きしないと思う	１６％

四国電力須崎営業所

表２の１～３を良，４～５を否とすれば５８％と４２％となる。このことから，ゼロ災運動はまだ自分のものとして定着していないことがわかる。

次に，今後どのように進展してゆくと思うかでは，表１の１～３を良，４～５を否とすれば，５６％と４０％となる。

これを表２と対比して見る。表２の１～３を良，４～５を否とすれば，７１％と２９％となる。これらの結果から，ゼロ災運動を続けてもおしつけではなく自主性を重んずる小集団の育成につとめなければならないことが示唆されていると考えられる。

また，私たちが最も注目していた表１の７「ゼロ災運動は官庁組織になじまないと思う」が４％にとどまったこと，更に表１の５「永続きしないと思う」が４％という結果を示した事について，自主活動は官庁組織でも十分に生されることが示唆されたと理解している。

む　す　び

署長以下職員一人一人が，様々の環境にあって作業を遂行するプロセスにおいて，自分の問題として安全衛生を真剣にとり上げ，皆んながそれぞれの立場，持ち場で積極的に参加し実践すること，全員が常に安全衛生にとりくみ生き生きとした組織体制をつくることこそこのきびしい国有林野にとって必要なことであると考え，今後もあらゆる方法で問題点の解明をし発展させたいと願っています。

皆様方のご批判，ご助言をいただければ幸いです。